

平成18年1月の解説（府県天気予報）

【1月の天候状況】

上旬の前半は低気圧の影響で全国的に曇りや雨、雪の日が多くなりました。後半は冬型の気圧配置が続き、北日本や東日本、西日本の日本海側で雪や雨の日が続きましたが、太平洋側では晴れました。中旬は、はじめに北日本と日本の南岸を低気圧が通過して全国的に雨や雪が降った後、日本の南海上の前線や低気圧の影響で東日本、西日本の太平洋側を中心に曇りや雨の日が多くなりました。下旬は冬型の気圧配置が続き、北日本や東日本の日本海側では雪の日が多くなりましたが、太平洋側の地方では晴れの日が多くなりました。

月を通しての日照時間は、北日本の太平洋側と東日本、西日本の日本海側の地方の一部では平年と比べて多くなりましたが、その他の地方では平年と比べて少なく、北日本の日本海側では多くの地点で平年の60%を下回りました。降水量は北日本の太平洋側で平年より少なく、平年の40%を下回った観測地点もありましたが、東日本、西日本の太平洋側の地方では平年より多く、多くの観測地点で平年の170%を上回りました。月平均気温はほぼ全国的に平年並か低く、東日本では平年より2℃以上低い観測地点もありました。

【1月の検証結果】

17時発表「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報では78%で例年^(注)より4ポイント低く、明後日予報では例年と同じ79%でした。地域毎の適中率は、明日予報は東海、近畿、四国地方で8ポイントから14ポイント低くなりましたが、九州南部地方では8ポイント高くなりました。明後日予報は東海、北陸、四国、九州北部地方で3から6ポイント低くなりましたが、九州南部地方では3ポイント高くなりました。明日の最高気温および最低気温の予報誤差はともに、ほぼ全国的に例年と同様で、全国平均では例年と同じ1.6℃でした。

(注) 例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【1月の天気予報から】

冬の東京地方は晴れる日が多くなりますが、時には大雪になることもあります。東京地方で大雪になるのは、低気圧が発達しながら日本の南海上を東へ進む場合で、上空の気温が低く地上で北よりの風が吹いていることなどの条件が満たされる必要があります。

1月21日に関東地方で大雪が降りました。前日(20日)夕方に天気予報を発表する際に使用した資料では、21日には本州の南岸を低気圧が発達しながら通過し(図1)、上空1500m付近の気温も-3℃から-6℃と低くなる予想で、大雪となる典型的な条件がそろっていました。雪は低気圧が通過する朝のうちから降り始め、積雪は5~10cm程度になると予想していました。

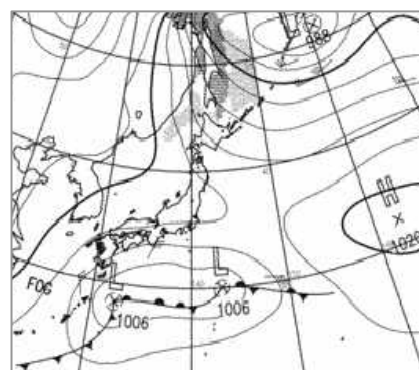


図1 2006年1月21日9時の予想天気図
(20日9時時点の24時間後の予想)

実況の地上天気図（図 2）では、本州の南岸に予想図にはなかった小さな低気圧が発生していますが、ほぼ予想どおりの気圧配置となりました。東京地方で午前 0 時頃から降り始めた雪は 6 時には大手町で 1cm の積雪となり、その後も宵のうちまで降り続いて 9cm の積雪となりました（図 3）。

21 日は大学入試センター試験が予定されており、積雪が与える交通機関等への影響が懸念されるため、気象庁では大雪に関する気象情報を発表して、関係機関に対して事前の雪対策の必要性を伝えていました。大手町での積雪は予想よりも多くなりましたが、雪には湿った雪、乾いた雪、みぞれなどさまざまな降り方があり、同じ降水量でも降り方により積雪が大きく違うことが、雪の予想を難しくしています。

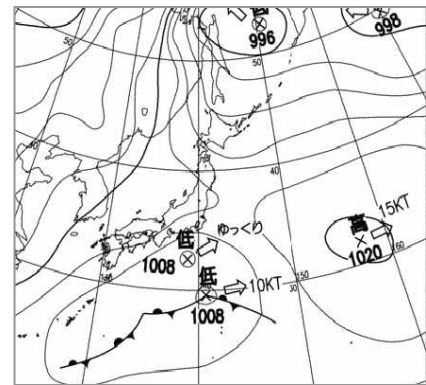


図2 2006年1月21日9時の地上天気図

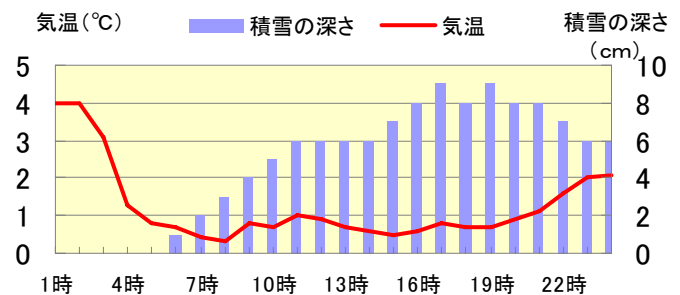


図3 2006年1月21日東京(大手町)の気象経過

【3月の天気予報の利用にあたって】

3 月になると日本付近で冬型の気圧配置が何日も続くことは少なくなり、日本付近を高気圧と低気圧とが交互に通過し晴れの期間と雨や曇りの期間が交互に現れる天気になりますが、時には一時的に強い冬型の気圧配置になり西日本でも大雪が降ることもあります。

2005 年の 3 月には、10 日に日本海に発生した低気圧が 11 日に日本の東海上に抜けた後、12 日から 14 日まで日本付近は冬型の気圧配置となり、西日本の日本海側を中心の大雪となりました。鳥取では 10 日の昼ごろには気温が 20℃近くまで上がって暖かくなりましたが、低気圧の通過した後急速に気温が下がり、13 日から 14 日の午前中にかけては氷点下まで下がり雪が降り続き、14 日の夜には積雪が 50cm を超え大雪による被害が発生しました。

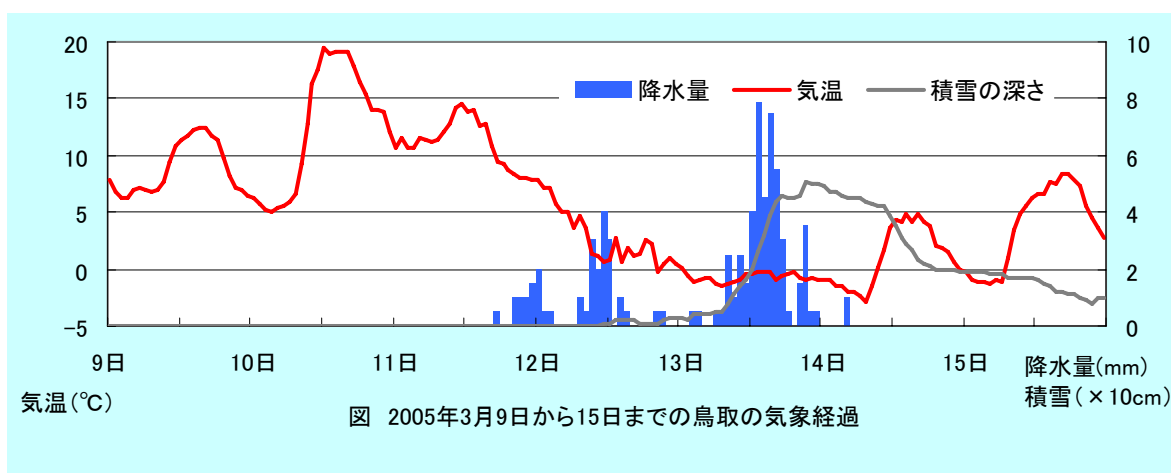


図 2005年3月9日から15日までの鳥取の気象経過

3 月は、ぽかぽか陽気の暖かい日になったかと思うと次の日には一転して急速に気温が下がり大雪が降るなど、天気や気温が大きく変わります。最新の防災気象情報や天気予報を活用して雪や低温による災害の防止や健康管理等に役立てて下さい。